

インテリジェンス

JJ1SXA/池

一寸難しい話(私にとって)？です、最近、ある本の宣伝を見ました、どんな題名かというと、「シギント…SIGINT /最強のインテリジェンス」(元内閣情報センター次長・茂田忠良×麗澤大学客員教授・江崎道朗共著)となっています、帯封には、…「本邦初のシギント入門書、これを知らずして国際情報は語れない」、「盗聴、ハッキング、国益を賭けた戦い(インテリジェンス・ウォー)の世界」、「繰り返す！これは架空ではない！国家防衛分析プロジェクト」…とある、何とも、物々しい感はあるが、知らない語句が躍っている。

まずは、「シギント」とは何なんだ？早速、「Google先生？」に聞いたら(検索したら)、シギント(SIGINT; Signal Intelligence)は、「通信、電磁波、信号などを傍受して収集されるデータ、情報」とのことだった。

そもそも良く聞く「インテリジェンス(Intelligence)」というのは、…「(高度に発達した)知能・知性」といった意味のほか、「諜報機関」を示す言葉でもあり、そこから派生して「諜報活動」「機密情報」などの意味でも使われる。…とのことだ。

また、別の解説を見ると、「インテリジェンスにおいては、多様な知や知の素材を扱う要請が強く、主としてデータや情報の収集手段を軸にして便宜的に次のように分類される」という。

- (1) オシント(OSINT; Open Source Intelligence): 新聞、雑誌、公開企業の財務諸表、営業報告書、学術論文など、一般的な活字媒体やインターネットから得られるデータ、情報、知識。ソースコードが公開されているオープンソース・ソフトウェアも含まれる。
- (2) ヒューミント(HUMINT; Human Intelligence): 人が人に接触して収集するデータ、情報、知識。相手の経歴、身体的特徴、思想傾向、雰囲気、性癖、言語化されない暗黙知も含まれる
- (3) シギント(SIGINT; Signal Intelligence): 通信、電磁波、信号などを傍受して収集されるデータ、情報。シギントはさらに以下のように分類される
 - ・コミント(COMINT: Communication Intelligence): 通信傍受や、暗号ならびにトラフィックの解読によって得られるデータ、情報
 - ・エリント(ELINT: Electronic Intelligence): レーダーなど非通信用の電磁放射から得られるデータ、情報
 - ・アシント(ACINT: Acoustic Intelligence):
水中音響情報などによる潜水艦、艦船および水中武器の音響から得られるデータ、情報
- (4) イミント(IMINT: Imagery Intelligence): 航空機や偵察衛星によって集められる画像的データ、情報

ここまでの解説を読み進めると、「シギント」の正体が少し見えてきたが、それにしても、「……ント」という言葉の多いこと、恥ずかしながら、私にとっては、初めて聞く言葉が大部分だ、これって、本当は現代人の常識で、知らない私がまともで無いのか？認知症領域に片足以上入ってしまったか？「違う！」と言いたいけどどうなんだろう…hi



定価 ¥1,870は、年金生活者には高くて手が出ない、それより何より、中身が全部理解できるのか？そちらのほうが問題だ。hi

「ビジネスマン必読「世界」の認識が変わる」という文言も気にかかる。

「オシント、ヒューミント、シグイント、イミントの四段活用」などという人があるが、真意は？

(2024年4月記)